

法政大学（以下、「本学」という。）は、法政大学憲章に基づき、多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、社会や人のために真に自由な思考と行動を貫きとおす自立した市民を輩出することで地球社会の課題解決に貢献することを使命としている。これを実現するため本学は、研究活動によって得られた成果を蓄積し、社会への還元を進めるにあたり、研究データの管理、公開及び利活用について以下のとおり定める。

なお、本ポリシーは、本学における研究データの管理、公開及び利活用に関する方針を示すものであり、法令、契約及び本学が定める規程等の実施に制約を与えるものではない。

（研究データの定義）

1 本ポリシーが対象とする「研究データ」とは、本学における研究活動の過程若しくは結果として研究者によって収集又は生成された情報を指し、デジタルか否かを問わない。

（研究データの管理及び公開）

2 本学及び研究者は、法令、本学の規程（これに準ずるものを含む）の範囲内並びに他の者の権利及び法的利益を害さない範囲において、相互に協力して研究データを適切に管理及び公開する。

（研究者の責務）

3 研究者は、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、前項に掲げる範囲内において研究データを適切に管理し、可能な限り公開することでその利活用を促進する。

（大学の責務）

4 本学は、研究データの管理、公開及び利活用促進を支援する環境の整備を推進する。

（その他）

5 社会や学術環境の変化に応じて、適宜本ポリシーの見直しを行うものとする。

以上